

女性研究者研究活動支援事業（連携型）

（実施期間：平成 26～28 年度）

代表機関：お茶の水女子大学（総括責任者：室伏 きみ子）

共同実施機関：芝浦工業大学、物質・材料研究機構

プロジェクトの概要

(1) 体制及び活動内容

お茶の水女子大学のリーダーシップ養成教育研究センター、芝浦工業大学の男女共同参画推進室、物質・材料研究機構の男女共同参画デザイン室が連携し、1) 工学系女性研究者の増加、2) 女性研究者を上位職へ登用、3) 研究力と研究者の質の向上、4) 雇用環境整備と支援活動の普及を実施する。

(2) 各機関の役割分担や連携協力体制

国立女子大学として女性研究者を多数養成・輩出してきたお茶の水女子大学、私立大学として工学系人材の養成・輩出に力を注いできた芝浦工業大学、世界トップレベルの研究機関である物質・材料研究機構の3機関が連携、相乗効果により難関とされてきた「工学系の女性研究者比率の引き上げ」に挑む。新しい「工学系女性比率向上モデル」を構築し、普及する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	a	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

代表機関のリーダーシップの下、性格の異なる3機関が強い信頼関係に基づき連携し、工学系女性研究者の活躍や次世代育成を促進し、顕著な成果を収めたことは評価できる。女性研究者の在職比率、採用比率、役職者登用率、上位職（准教授相当以上）登用率等の目標を上回り達成するとともに、「連携大学院方式」の導入、企業見学会やインターンシップの実施、復職支援データベースの拡充等により3連携機関における女性人材の流動化を図り工学系女性研究者の好循環モデルを構築したことは評価できる。今後は、理工学系女性研究者の上位職（教授、准教授）への登用をより積極的に推進することを期待する。

- ・**目標達成度**：工学系分野での JSPS 特別研究員採用比率向上に係る目標は達成できなかったが、女性研究者の在職比率、採用比率、役職者登用率、上位職（准教授相当以上）登用率等他すべてについては目標を上回り達成しており評価できる。
- ・**取組**：3連携機関の工学系女性研究者や女子学生の流動化を図るため、「連携大学院方式」を導入し、物質・材料研究機構から2大学への女性客員教授の招へい、2大学間における「単位互換制度」や「教育研究交流制度」を創設したことは評価できる。また、工学系企業的女性卒業生の協力を得て実施した、女子学生のための企業見学会やインターンシップは、工学系研究

者を目指す女子学生の増加を図った特色ある取組として評価できる。

- **取組の成果**：3連携機関の長のリーダーシップにより、女性研究者の積極的な採用が進められ、女性研究者在職比率が目標を上回り上昇したことは評価できる。さらに、「研究力強化プログラム」の実施により、女性研究者の科学研究費採択率が大幅に上昇したこと、女性役職者の意欲的な登用により、物質・材料研究機構では初の女性理事が誕生したことは評価できる。今後は、工学系女性研究者の上位職（教授、准教授）への積極的な登用を期待する。
- **実施体制**：代表機関の総括責任者を本部長、共同実施機関の総括責任者を副本部長とする「事業実施本部」の下に「事業推進連絡会議」を設置し、代表機関がリーダーシップを十分に発揮しつつ、3連携機関がその特性を活かしながら密接に連携を図る実施体制を構築したことは高く評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も、3連携機関がそれぞれ実施体制を維持し、工学系女性研究者の活躍促進と次世代育成に継続的に取り組んでおり評価できる。本事業で構築した3連携機関の密接な連携体制を今後も維持し、取組の更なる発展を図ることを期待する。